

平成 28 年 7 月 28 日

## 平成 27 年度学校関係者評価委員会報告

学校法人 平成医療学園  
横浜医療専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人 平成医療学園 横浜医療専門学校 学校関係者評価委員会は、自己評価委員会において作成された平成 27 年度自己評価報告書に基づき学校関係者評価を実施したので、以下の通り報告いたします。

### 記

1. 日 時：平成 28 年 7 月 23 日（金） 16：00～18：00
2. 場 所：横浜医療専門学校 5 F 校長室
3. 学校関係者評価委員（敬称略）
  - 平沢 誠剛 （全国柔整鍼灸協同組合・総代、旗の台駅前整骨院・院長）
  - 渡部 典郎 （東京鍼灸マッサージ協同組合・専務理事、芝東洋院・院長）
  - 神谷 光徳 （宝塚医療大学・客員教授）
  - 加藤 教義 （誠治会【同窓会】・会長、さくら鍼灸整骨院・院長）
4. 事務局 <出席者>
  - 吉田 重光 （横浜医療専門学校・校長）
  - 曾我部 貴仁 （横浜医療専門学校・事務長代理）
  - 赤池 誠司 （横浜医療専門学校・教務部長）
  - 正木 基之 （横浜医療専門学校・鍼灸師科・学科長）
  - 山下 昌一 （横浜医療専門学校・柔整師科・学科長）
  - 林 涼子 （横浜医療専門学校・教務科）

<欠席者>

  - 吉田 洪洗 （横浜医療専門学校・統括長）公務の為
5. 学校からの説明
  - ①学校関係者評価委員会規程について
  - ②学校関係者評価委員会の委員について
  - ③自己評価委員会規程について
  - ④自己評価報告書について

## 6. 学校関係者評価委員による評価結果

### I 重点目標について

○本校の重点目標として、学生が鍼灸師・柔整師の国家試験に合格するための教育と支援を第一に据えつつも、需要のあるスポーツ外傷や介護福祉等の分野にも活躍の場を広げられるよう、関連性の高い新たな教育分野の開拓に努めて頂きたい。

○学生が教科書や文献から知識を得るだけでなく、実際に自分の体験として想像できるよう、外部治療院での臨床見学実習の実施や、臨床経験の豊富な先生を招いての授業など、現場の声を取り入れる機会を増やし、医療人として社会の様々な分野で活躍する可能性と将来イメージの拡大に繋げたい。

### II 各評価項目について

項目	評価
基準1 教育理念・目的 ・育成人間像	○これまでの良い流れを引き継ぎ、後継者を自らの手で育てようという理念のもと、医療を通じての社会貢献を推進してもらいたい。
基準2 学校運営	○組織運営が順調であることが窺え、異論はない。 ○引き続き、IT技術の活用等による学校運営の迅速化を目標に運営して欲しい。
基準3 教育活動	○好評のアロマセラピーに加え、「健康」というテーマを大枠に、栄養、運動、生活等の分野でのセミナー開催を検討してはどうか。 ○管理栄養士を招いての栄養学講座、介護福祉の現場から看護師を招いての足底管理、巻き爪のケアなどを実施し、医療人としての卒業後の可能性と選択肢を広げ、現場で活かせるような講習を開催してはどうか。 ○障害者スポーツのトレーナー体験や見学実習等も視野に入れ、障害者を治療対象とした授業を新たな教育活動や実習項目に取り入れることを検討してはどうか。 ○ケアマネージャー、介護福祉士の道にも後押しができるよう、5年以上の実務経験者であるOBを中心に、講習を検討してはどうか。 ○学生が壇上に上がり人前で発表をするなどの機会を設けてはどうか。 ○今年度から実施されるインターンシップの結果を分析することで、教育活動における改善点を見出し、今後のより良い活動に繋げて欲しい。 ○教員の資質向上の為、今年度のワークショップの成果も期待している。 ○学生、卒業生の身だしなみ（最低限、手と爪の手入れ）、医療人としてのマナー、社会人としての常識を身に付けられるよう教育指導を継続してもらいたい。
基準4 学修成果	○鍼灸師の国家試験合格率の高さは評価できる。柔整師の国家試験合格については近年、より厳しくなっている傾向があるが、学生募集においても重要な判断基準となるので、教員はさらに高い合格率達成を目指し、教育に力を注いでほしい。 ○合格率だけでなく卒業率が高いことは、教育機関として評価に値する。

<p>基準5 学生支援</p>	<p>○新しい両科在籍制度の導入で、通学時期が重ならなくても納付金の減額が適用されるようになり、学生・卒業後のOB、両者に有益であり素晴らしいと思う。</p> <p>○専門実践教育訓練給付金を活用した場合、社会人学生の金銭的負担は大幅に軽減され、その数字は驚くべきものである。今後も周知と奨励に励んでもらいたい。</p> <p>○今年度から、家計困窮者に対する支援を規定に加えたことは評価できる。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>○2階と7階にあるトレーニング機器があまり利用されていないので、有効活用を検討してはどうか。</p> <p>○教室のスクリーンを中央に移動する、掛けるスクリーンボードを活用する等、教員と学生双方にとって、快適で効率的な教育・学習環境の整備を期待する。</p> <p>○教員の学会参加を推奨するのはもちろんのこと、学生にとっても、学会、勉強会に触れることは大変勉強になるので、是非参加を促して欲しい。</p> <p>○図書室の雑誌をPDFで保存し共有するというアイデアに賛同する。</p>
<p>基準7 学生の募集 と受入れ</p>	<p>○特に学生ら若い世代においては、紙面から情報を読み取る時代から、ホームページ等ウェブ上から情報を収集する時代に移行したと言える。引き続き、ホームページを充実させて、情報発信をしていく路線で間違いないと考える。</p> <p>○ホームページのリニューアルなど、一定の成果が窺える。</p> <p>○高校訪問やオープンキャンパス、学校説明会等で学生のエントリーが確実に増え広報活動の成果が見える。引き続き、学生募集に邁進していただきたい。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>○横浜医療専門学校ホームページで財務が公開されているが、財務状況は極めて健全であると思われる。</p> <p>○財務状況が明瞭であり、透明性が高く、全く問題が見当たらない。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>○教育機関として、様々な法令等についての情報収集を行い、内容を十分に理解した上で、適切な運営を行っていくことが重要である。</p> <p>○法令遵守が当然のことであるのは言うまでもない。今後とも法令に則り、健全な学校運営を行っていただきたい。</p>
<p>基準10 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>○知識・技術・人間性において優れた平成の医療人を育て、社会に輩出することで今後も教育機関としての責務を果たし、社会貢献の一端を担ってほしい。</p> <p>○オープンキャンパスに協力してもらった在校生を、これまではアルバイトとして採用していたが、今年度からボランティアとして募集した結果、予想を大幅に上回る35名程の応募があった。司会も学生が行うなど学生主体の良い流れができたとのことで、未来の後輩にアドバイスする等ボランティア精神を養うことにも繋がる良い試みであると思う。</p>

以上

### Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

項目	評価結果の活用状況
基準3 教育活動	○平成29年度に向けて、「職業教育」の授業ならびにゼミの内容について、従来の柔整・鍼灸に関連した分野だけでなく、卒業後の可能性と選択肢を広げ、現場で活かせるような講義・実習の実施計画を策定することにした。 ○学生の学習に対するモチベーション向上の為、体験型授業、学生参加型授業の実施を企画・検討することにした。
基準4 学修成果	○卒業生を国家試験に合格させて国家資格を取得させることは学校としての使命であるので、鍼灸師科、柔道整復師科それぞれに検討委員会を設け、より効果的かつ効率的な国家試験対策を策定することにした。
基準5 学生支援	○鍼灸師と柔道整復師の両方の国家資格を取得することを目指している卒業生に、もう一方の学科への入学を促すための広報活動を、より強化することにした。
基準6 教育環境	○トレーニング機器の有効活用についての検討を開始した。 ○各教室のスクリーンとプロジェクターの移設等について、改修に必要な費用も含めた検討を開始した。
基準7 学生の募集 と受入れ	○ホームページ、パンフレット等、広報活動の一層の統一性を図るとともに、入学後のミスマッチを未然に防止するために、オープンキャンパス、学校説明会等における在校生との触れ合いを強化することにした。
基準10 社会貢献 ・地域貢献	○オープンキャンパスにおける在校生スタッフを核として、学生が主体となった地域貢献、社会貢献に繋がるボランティア活動を実施する組織を作り上げていく予定でいる。

以上